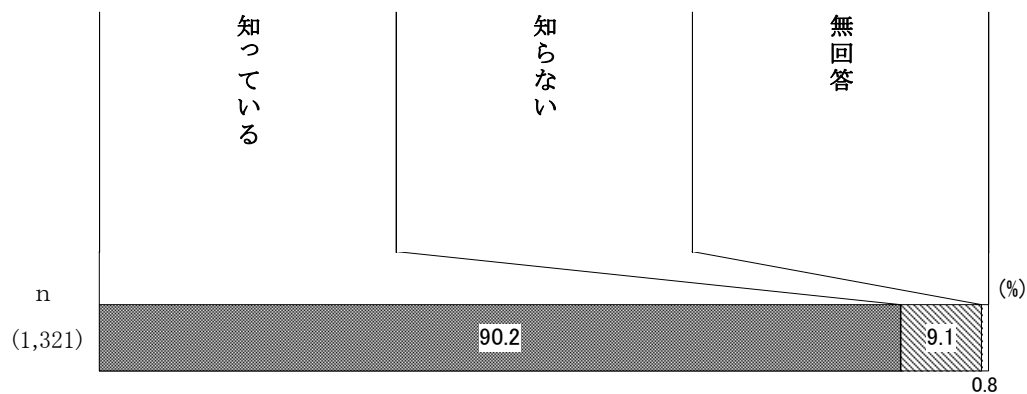


6. 水道料金・下水道使用料について

(1) 水道料金と下水道使用料を一緒に支払っていること

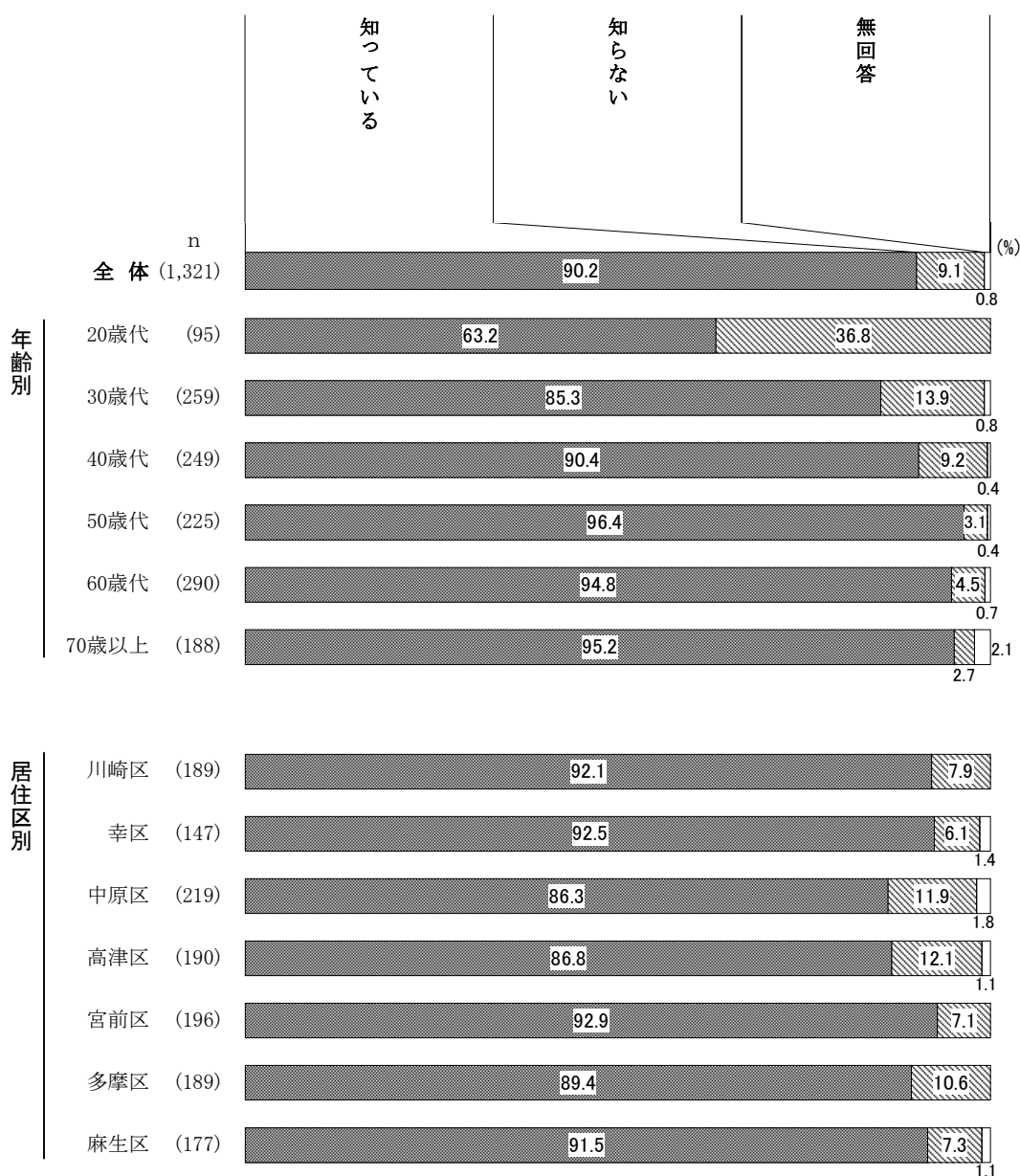
◇「知っている」が9割

問10 あなたは、水道料金と下水道使用料を一緒に支払っていることをご存知ですか。(○は1つだけ)



水道料金と下水道使用料を一緒に支払っていることは、「知っている」(90.2%)、「知らない」(9.1%)となっている。

○年齢別／居住区別 水道料金と下水道使用料を一緒に支払っていること

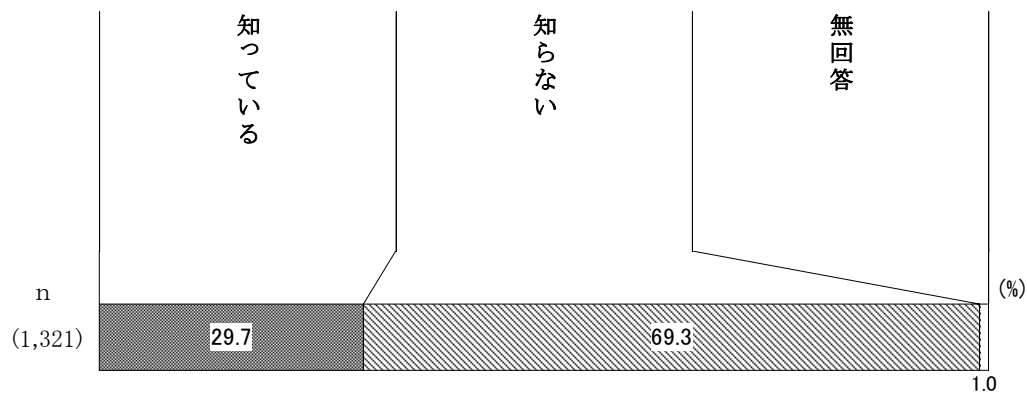


年齢別にみると、「知っている」割合は20歳代で6割強と特に低くなっている。
 居住区別にみると、「知っている」割合は中原区、高津区でやや低くなっている。

(2) 雨水排除費用、汚水処理費の出所の認知

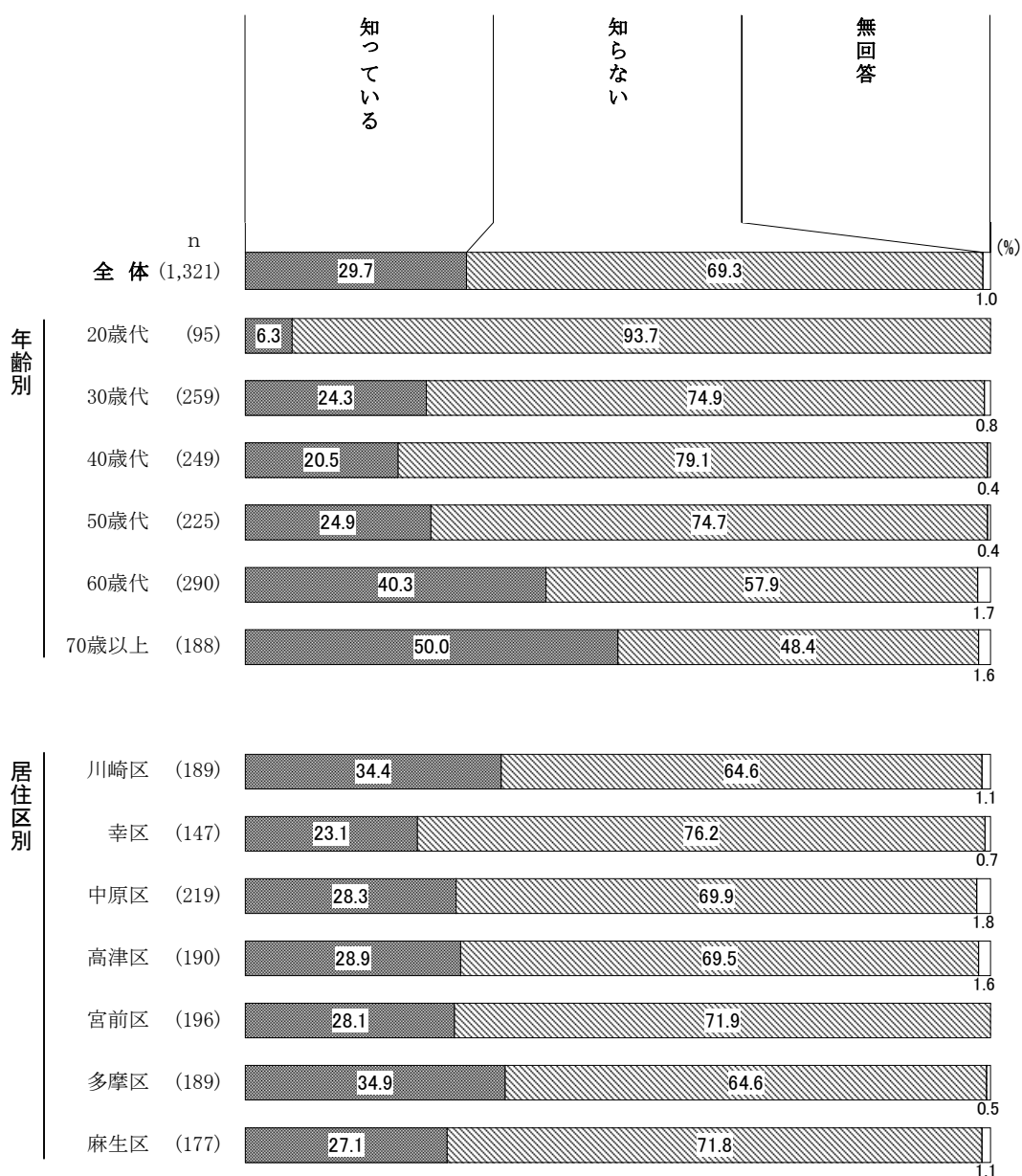
◇「知らない」が7割

問11 あなたは、雨水を排除する費用には税金が充てられ、汚水処理費には下水道使用料が充てられていることをご存知ですか。(○は1つだけ)



雨水排除費用、汚水処理費の出所の認知は、「知っている」(29.7%)、「知らない」(69.3%)となっている。

○年齢別／居住区別 雨水排除費用、汚水処理費の出所の認知

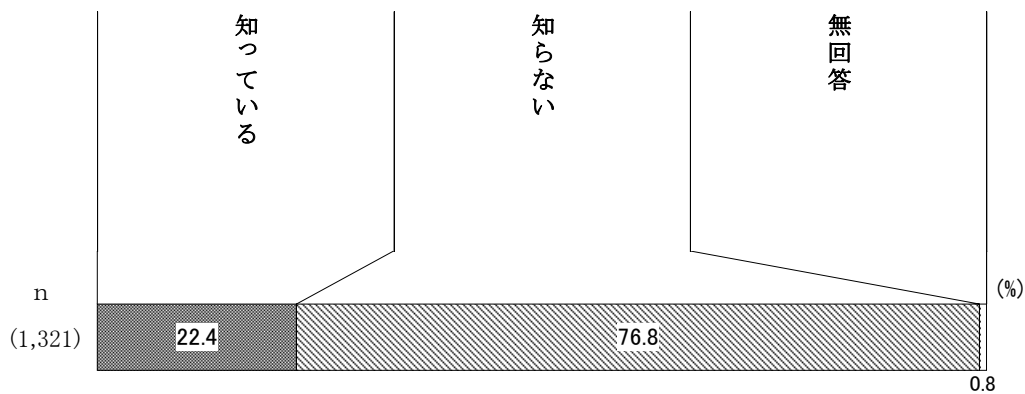


年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど「知っている」割合が高くなっている。
 居住区別にみると、川崎区、多摩区で「知っている」割合が3割台半ばと比較的高くなっている。

(3) 地下水等を流すと下水道使用料がかかること

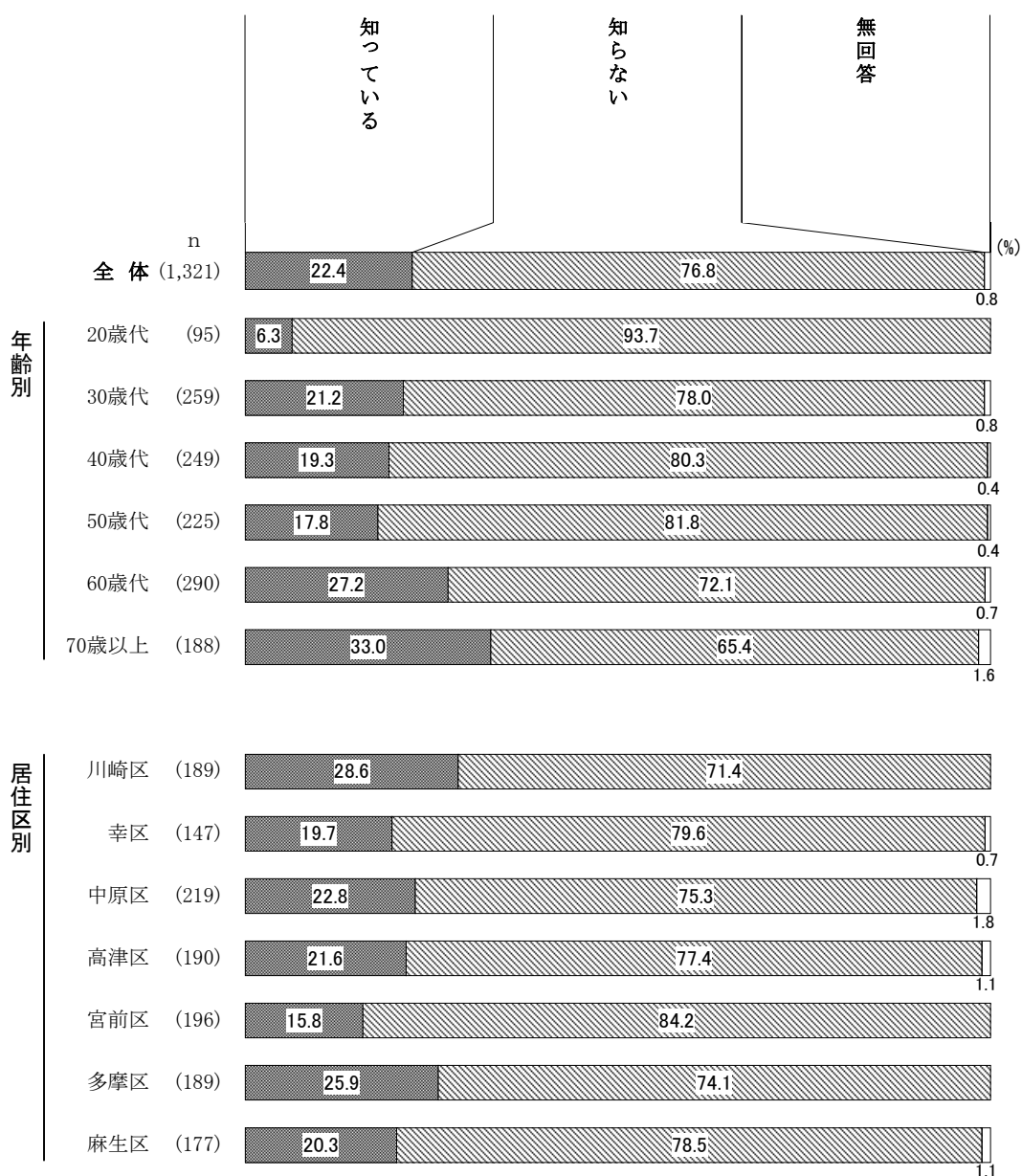
◇「知らない」が7割台半ば

問12 あなたは、水道水以外にも、地下水等を下水道に流すと下水道使用料がかかることをご存知ですか。(〇は1つだけ)



地下水等を流すと下水道使用料がかかることは、「知っている」(22.4%)、「知らない」(76.8%)となっている。

○年齢別／居住区別 地下水等を流すと下水道使用料がかかること

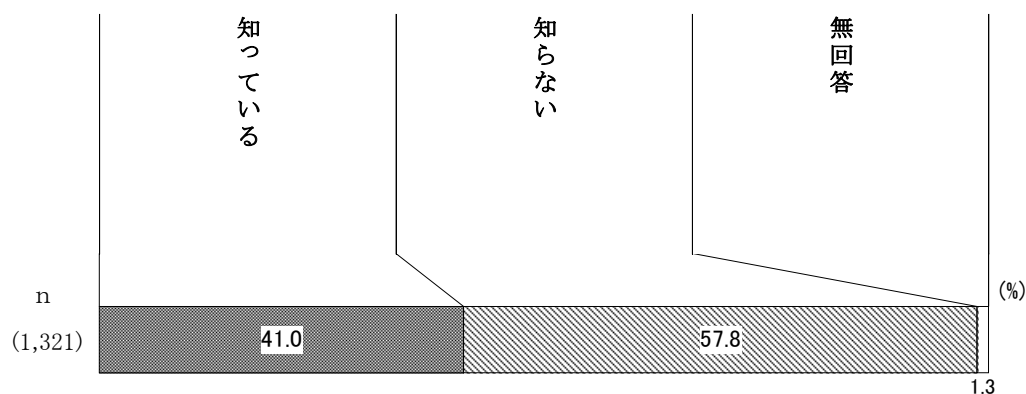


年齢別にみると、「知っている」割合は20歳代で特に低く、60歳代以上で高くなっている。
 居住区別にみると、川崎区、多摩区で「知っている」割合が比較的高くなっている。

(4) 使用水量等の増加に伴って単価が高くなること

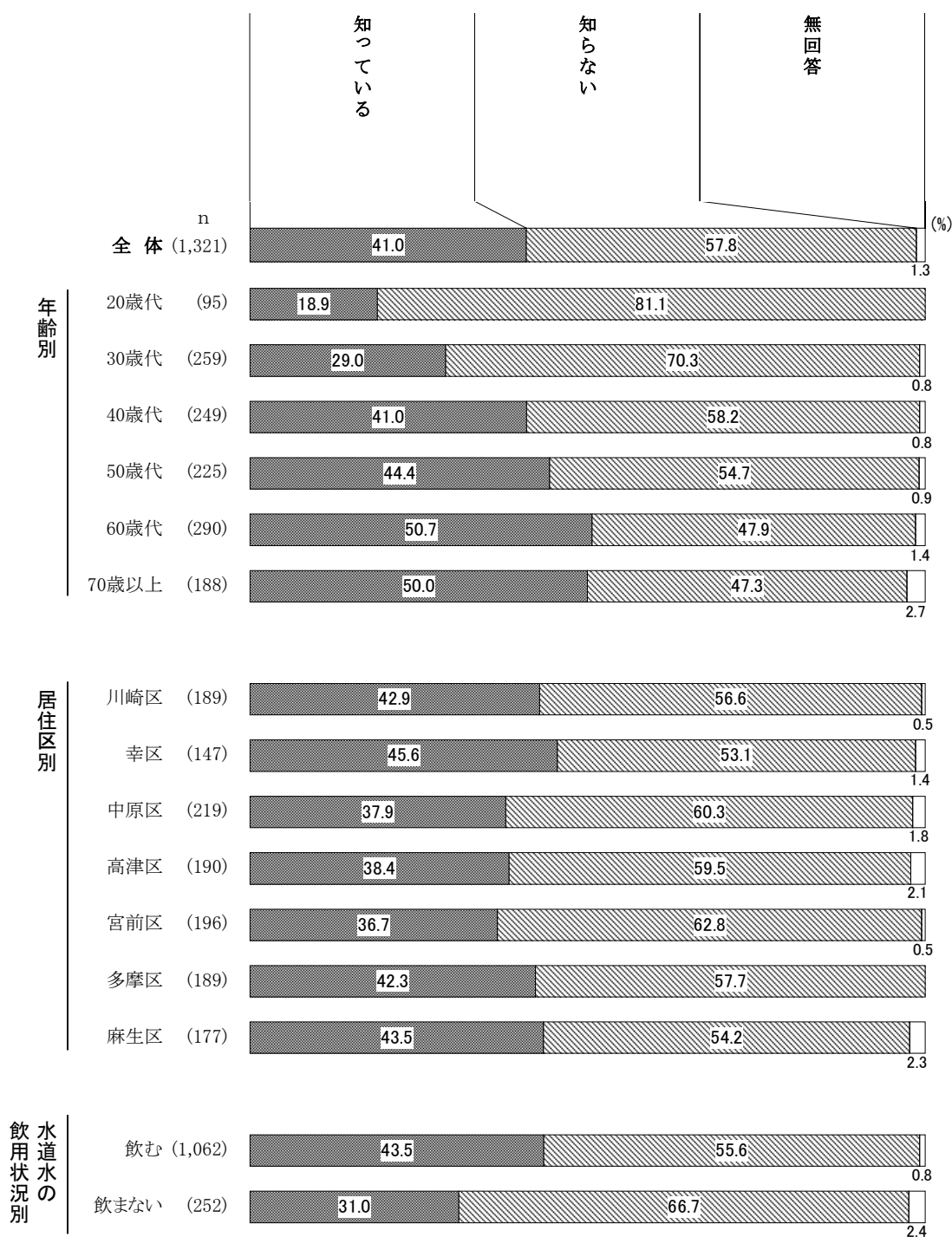
◇「知らない」が6割弱

問13 川崎市では、図1のとおり水道の使用水量等の増加に伴って1立方メートル当たりの水道料金と下水道使用料が高くなる制度としています。あなたは、川崎市がこのような制度を採用していることをご存知ですか。(○は1つだけ)



使用水量等の増加に伴って単価が高くなることは、「知っている」(41.0%)、「知らない」(57.8%)となっている。

○年齢別／居住区別／水道水の飲用状況別 使用水量等の増加に伴って単価が高くなること



年齢別にみると、概ね年齢が高くなるほど「知っている」割合が高くなっている。

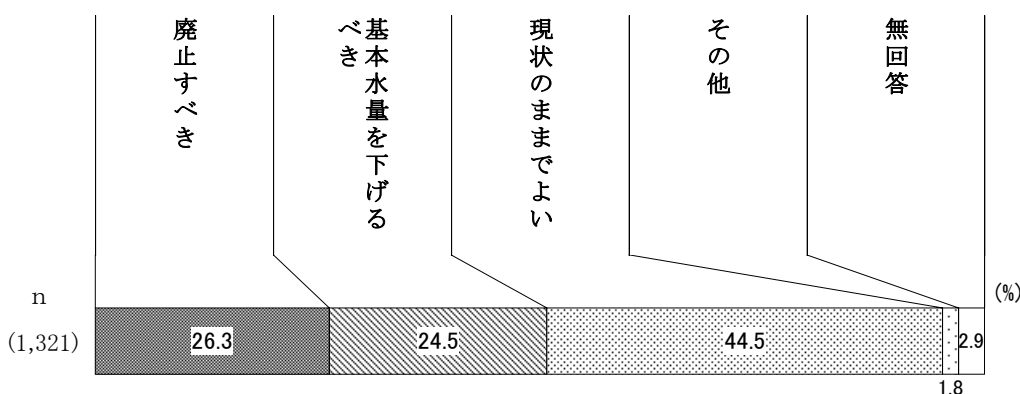
居住区別にみると、「知っている」割合は幸区で4割台半ばと最も高くなっている。

水道水の飲用状況別にみると、「知っている」割合は、水道水を飲む人では4割強なのに対し、飲まない人では3割強となっている。

(5) 基本水量制に対する考え方

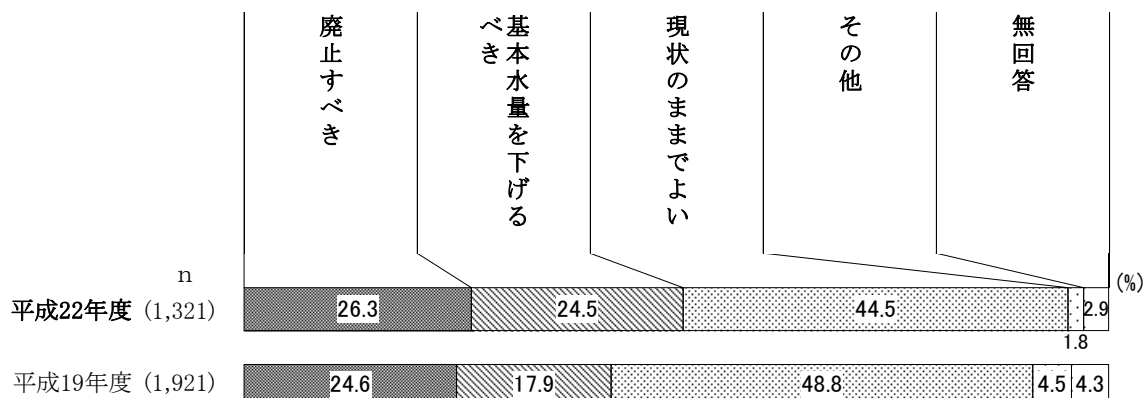
◇「現状のままでよい」が4割台半ば

問14 川崎市では、基本水量の設定により、一定の水量までの水道料金と下水道使用料を定額としています（2か月当たりの使用水量0～16m³。下図2参照）。このような制度では、水を使っても使わなくても料金が変わらないことから「節水意識が働かない。」といった声も上がっています。あなたは、この制度（基本水量制）についてどう思われますか。（〇は1つだけ）



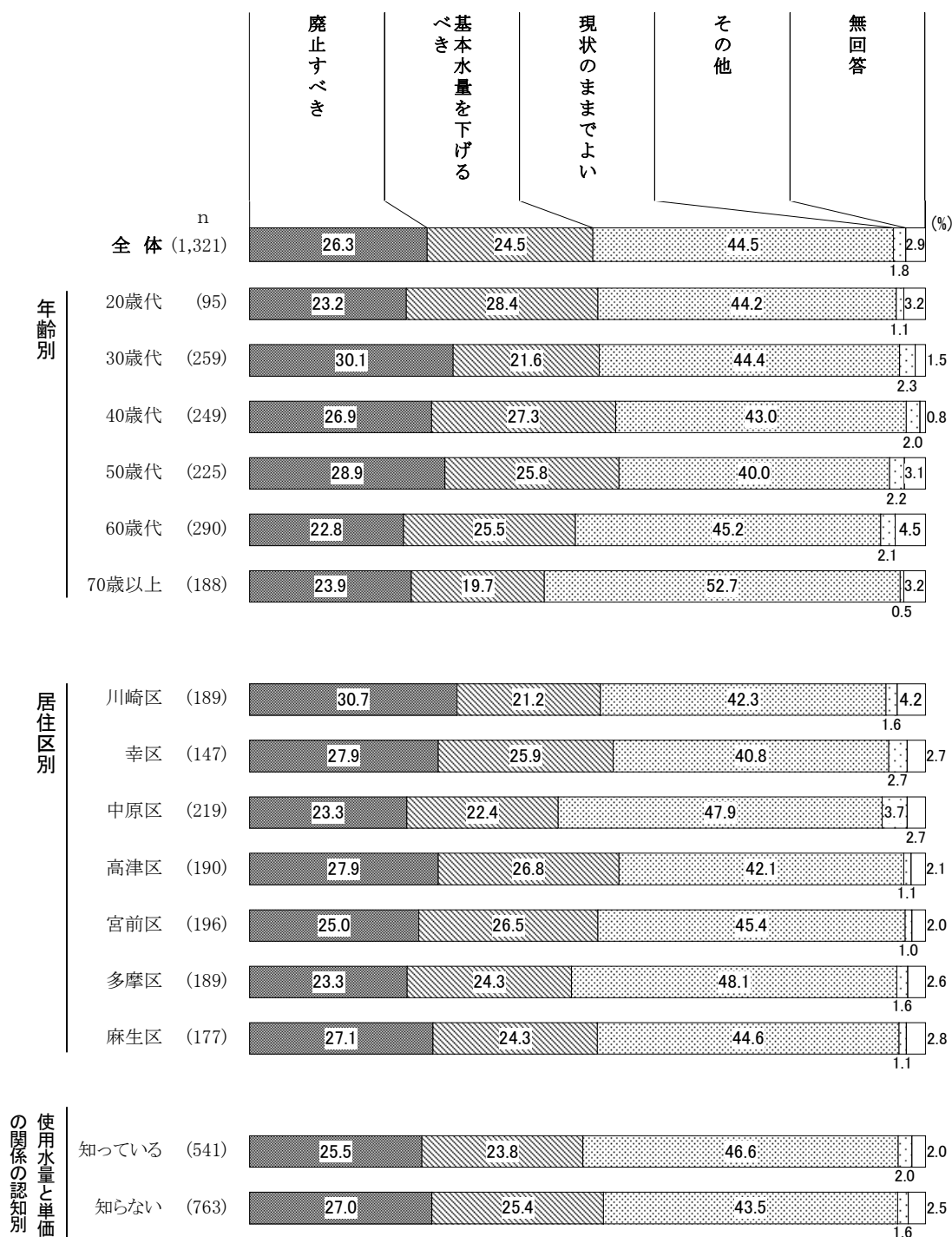
基本水量制に対する考え方は、「現状のままでよい」の割合が44.5%で最も高く、以下、「廃止すべき」(26.3%)、「基本水量を下げるべき」(24.5%)の順となっている。

【経年比較】



経年で比較すると、「基本水量を下げるべき」が6.6ポイント増加し、「現状のままでよい」が4.3ポイント減少している。

○年齢別／居住区別／使用水量と単価の関係の認知別 基本水量制に対する考え方



年齢別にみると、「廃止すべき」は30歳代で最も高く、「現状のままでよい」は70歳以上で最も高くなっている。

居住区別にみると、「廃止すべき」は川崎区で最も高く、「現状のままでよい」は中原区、多摩区で高くなっている。

使用水量と単価の関係の認知別にみると、使用水量と単価の関係を知っている人のほうが「現状のままでよい」がやや高くなっている。